

平成29年度 北九州市高齢者支援と介護の質の向上推進会議
第4回 介護保険に関する会議
第3回 調整会議

会議録

1 開催日時

平成30年2月2日（金）18：30～20：00

2 開催場所

本庁舎3階 大集会室

3 出席者

構成員

上村構成員、大下構成員、黒木構成員、下河邊構成員、白木構成員、
高嶋構成員、中野構成員、中村構成員、長森構成員、野村構成員、
橋元構成員、丸林構成員、村上構成員、渡邊構成員

事務局

副市長、地域福祉部長、介護保険課長、介護サービス担当課長、
長寿社会対策課長、地域福祉推進課長、地域支援担当課長、
認知症支援・介護予防センター所長、地域医療課長、計画調整担当課長

4 会議内容

- (1) 第7期介護保険料について
- (2) 第7期施設整備計画について
- (3) (仮称)北九州市いきいき長寿プラン(素案)に対する市民意見提出手続
実施結果の概要について

5 会議録（要約）

- (1) 第7期介護保険料について
- (2) 第7期施設整備計画について

議事録は「第4回 介護保険に関する会議」に掲載。

- (3) (仮称)北九州市いきいき長寿プラン(素案)に対する市民意見提出手続
実施結果の概要について **資料3**

(代表構成員)

パブリックコメントを含めて、意見はないか。

(構成員)

やはり次世代の人たちを育てていかなければならないと感じた。また、高齢者がいつまでも元気で最期まで住み慣れた場所で生活できるように援助していくにあたり、意識が高い方は何もいわずとも認知症予防の運動をすとか、食事に気をつけるとか、フレイルにならないように頑張っていくことはできるが、そういったことに意識が薄い人たちを自然体でどのように支えていくのかということが課題であると感じた。

(代表構成員)

介護職の処遇改善、イメージアップということで、賃金等のことも書かれているが、意見はないか。

(構成員)

今回の介護報酬改定の中で、施設が職員の資格取得に向けて努力するように加算の改定がなされた。介護福祉士が一定数いれば、大きな加算になる。今後は、北九州市の介護の質の担保をどのようにしていくのか、それを示すことができるようにしていかなければならないと思う。

(代表構成員)

パブコや素案を含めて意見はないか。

(構成員)

パブリックコメントの「3 地域づくり」について、地域で支え合うことが大事だと思うが、パブリックコメントでもあるように、若い人にも見守りをしてもらいたいし、若い人の中でも障害とか、家庭の問題を抱えている方もいる。お互いに支え合う仕組みということで、校区の「作戦会議」などにより、多世代交流ができれば地域でよりよく暮らせるようになるのではないかと思う。「作戦会議」が、今も行われているのかわからないが、これらに期待したい。計画だけでなく、実現に向かっていって欲しいと思う。

(代表構成員)

先ほど、構成員からは、若い世代の自覚、老後に対する自覚を促進するようなことも大切ではないかという御意見であった。この他にも、若い人が今後の介護を意識するということが大切だと思う。

元気だった高齢者(86歳)が転倒により、寝たきりに近い状態になるという事例があった。経済的な面でも、月々の年金のみでは不安があるが、この方の子どもたちも自分たちの生活で精一杯の状態であり、まさに8050問題の状態であった。これを自助・共助・公助、互助をどうシステム化するのか、これがいきいき長寿プランの中に組み込まれているはずであるが、どのように実行するのか課題があると思う。

(構成員)

このように北九州市はたくさんの施策をしているということを、どれだけの方が知っているのだろうか疑問に思う。業界団体の中でも、計画のことを知らない方もいるので、市民の方となるとさらに知っている方が少ないのではないかと。未だ介護保険とケアマネジャーの関連性がわからない方もいる。北九州市がこれだけ素晴らしい施策をしているということを、どうしたら多くの方に知っていただけるのかということについて考えていた。

(代表構成員)

これだけ多くの施策をしていることを、どれほどの市民が知っているのか、いつも議論になる。実際にやっている内容をいかに広報して、活用していくシステムを作り上げるかが、重要になってくる。多くの施策があっても、利用法を知らない人が多い。市民への周知をどのようにしていくかが重要である。

(構成員)

大変よくできていると思う。第三次計画と第四次計画の課題を洗い出して、今回の計画に活かしている。

目標1については、同時に策定されている健康づくり推進プランと共同して実施していただきたい。目標2については、健康づくり・介護予防に取り組む環境は整っていると思う。それをいかに地域へ広報していくかが課題であろう。私としても、実行しやすい具体的な取り組みを提案していきたいと思う。“支え合い”の項目については、介護人材の高齢化をどのように解消していくのか、検討していく必要があると思う。

軽度認知症所見のMCIについて、九州大学と共同して久山町が実施しており、早期発見・早期治療によって改善するという結果が出ている。北九州市もこれに力を入れ、大学病院などと連携を考えていただきたい。

目標3に関して、地域包括支援センターで高齢者いきいき相談をやっているが、PRが足りないと感じている。私も市民センターへ行くことが多々あるが、ポスターなども見受けられない。今後、もっと広報活動を行っていただきたい。

(構成員)

地域づくりについて、サービスを提供する側には営利企業の事業者が入ってくるので、採算が合わないところから、撤退しているという実状がある。事業所も介護報酬が上がりなければ、手を引かざるを得ないといことを考えると、NPOやボランティアなどを今から伸ばしていかなければならないと感じている。

(代表構成員)

地域づくりの重要性、特に共助についての御意見をいただいた。ボランティアやそれに伴うリーダーの養成などについて、今回の計画にも出てきている。

(構成員)

次の世代のために何をするのか、これが私たちに課せられたものだと思う。これだけのことを北九州市がしているのに、それを知らない方が多い。思いきって、学校教育で周知してはどうか。若い世代に示すというのも、一つの方法だと思う。私の所属する団体でも若い世代に様々な取り組みを一生懸命説いているけれども、来るのは一部の方のみで、残りの方にどう伝え広めていくのかが課題である。

(代表構成員)

他の計画の策定懇話会では、大学生も構成員に入っており、非常に活発に発言している。この他にも、北九州市立大学が中心となって、大学生を中心に講座を開講しており、これに出ることで単位が習得できる。北九州市の歴史・保健・福祉、自分たちができること、やらなければならないことがテーマで、前後期で15講座ずつある。興味のある方はリピートして受けているが、まだまだ広まっていない状況である。この講座のベースとなるのが、小倉北区魚町となるが、これが少しずつだが旦過市場にも広がっている。

一方で、大学教育の中では、地域包括ケアシステムがなかなか浸透していない。平成32年に理学療法、作業療法のカリキュラムが抜本的改正があるが、その中には地域包括ケアシステムを必ず入れる、訪問や通所などを演習として単位に入れるなど、少しずつ改善しているが、なかなか実現化していない。

(構成員)

教育が非常に大事であるということには同感である。教育委員会を変えていっても良いのではないか。地域というベースでは、全世代がつながっているという時代に入っている。学校教育の中でもこういったことを広めていくのも良いと思う。また、小中学生が入れる会議には積極的に入れて良いと思う。そういった思い切ったことをやっていかなければ、地域は変わっていかない。あるいは、自分の問題としての意識が生まれないのではないか。

人・産業などのいろんなところを網羅し、北九州をもっと好きになってもらうような何かを作っていかなければならないのではないか。

大学もそういった方向で動いていくべきではないかと感じている

つながりという点でいうと、この会議は face to face の会議であるが、今後はネット上の繋

がりなど、様々な繋がりが想定される。こういったことも見据えた施策を考えていかなければならないと感じている。

介護職の問題については、それぞれの施設が抱えている問題が異なるという点もあるので、その解決に向けてアドバイザーのようなものを設けるなどの方法があるのではないかと感じた。

(構成員)

国が縮小していき、北九州市も人口が減少している。それを見据えて、対策を考えるべきではないか。若い世代がこの計画を見たときに、負担を若い世代へ先送りしていると感じるのではないか。

やはり子どもが増える施策が大切。そういったものを示すべき。子どもたちに、今の大人は、子どもたちが大きくなった時の方向性をどのように考えているのかを伝えていかなければならないと思う。

(代表構成員)

次世代に負債を残さないようにという御意見をいただいた。

資料の中に、「介護のしごと出前授業」とあるので、事務局より説明をお願いしたい。

(介護保険課長)

高齢者福祉事業協会の会員施設に御協力いただき、小学校から大学までを対象に、介護の仕事の魅力や高齢者への思いやりの気持ちを育てるために、体験型の出前事業をやっている。

教育委員会と連携し、小学校では昨年度から実施を始めた。子どもたちの反応がとても良く、今まで介護の仕事はよく分からなかった、大変だと思っていたが、素晴らしい仕事だと分かった、介護の仕事をやってみたい、などの感想が寄せられている。次年度からは、保護者や教員向けのメニューも増やすこととしており、こういった取り組みを通じて、地域との繋がりもできるのではないかと考えている。年々、実施校も増やしている。

(構成員)

現在、市内の校区社協7箇所において、相談業務を行っている。栄養士やリハビリの専門職も派遣している。次年度はさらに7箇所増える予定である。

(代表構成員)

パブリックコメント意見を元に、それぞれの課題及びそれらが計画にどのように反映されているかについて説明がなされた。

この中で、構成員から意見があったのは、広報をどのようにするかということである。北九州市には多くの施策があるのに、それが市民に十分に伝わっていないということであった。また、次の課題としては、次世代へどのように受けついでいくか、学んでもらうのか。高齢者だけでなく、次の世代の方をどのように教育していくかということであった。

他に意見ないため、会議を終了する。